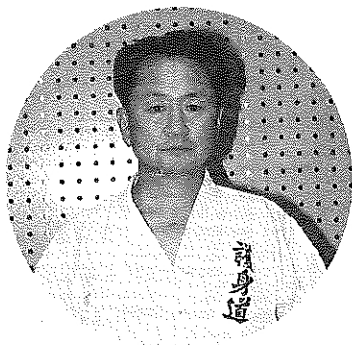


# この人と



## 爽快！新武道 スポーツチャンバラ 35段 泉南市 袖岡一禎さん(52歳)

日本で生まれた新武道、「スポーツチャンバラ」。日本だけでなく、外国でも流行りつつあるという。スポーツチャンバラとはどのような武道か、その魅力はどんなところにあるか、など、今回は、大阪府護身道連盟 国際スポーツチャンバラ協会大阪の理事長である袖岡一禎さんを訪ね、お話を伺うことにした。

袖岡さんは剣道の先生でもある。7、8年前、「重苦しい防具をつけずにもっと手軽に、(型にとらわれ

ず)自由にできる(武具を使わなかった)武道はないものか」と探し始め、関東でついに出会ったのがこのスポーツチャンバラだった。当時、大阪府にも個人的な愛好家はいたらしい。しかし、府内に正式な組織はなく、平成4年12月、袖岡さんたちの手によりやっと「大阪府連」として発足の運びとなった。

「ルールは簡単。手に剣を持って打ち合い、剣の先を相手の強さで先に相手に当てた方が勝ちというものです。練習、試合では武具を使いますが、身近にある傘や週刊誌を丸めたものなどででも応用でき、いざという時も役立ちます。剣道との大きな違いは型がないところ。簡単な基礎さえ身につけたら後は、各自、自分なりのやり方を編み出していくという獨創性、おもしろさがあります」。実際、袖岡さんが教えている一人に地面スレスレに体を落とし、地を這うような足打ちを繰り返す中学生がいて、袖岡さんさえそれには苦戦させられるという。防具はマスクのみ。武具としては、打たれてもあまり痛くないプラスチックの芯にウレタンを巻いたソフト剣を使用。短刀、小太刀、長剣など種類によって7種目に分かれる。

うち、袖岡さんの得意は小太刀。6段だ。全種目計では35段になる。「もちろん、この7種目全てをや

る必要はありません。基礎となる小太刀だけしか持っていない人も多くいます」。試合では異種格闘技といって、違う武具同士で戦うこともある。

現在、大阪に支部は15。指導者は府下にはまだ30人くらいしかない。袖岡さん自身は岸和田市の立山直市民センターなど定期的に週4回、4カ所で指導。「このスポーツのおもしろさを多くの人に味わってもらえたら、と思います」という。

女性剣士の割合は大阪では少なめだが、「もともとは護身を目的としていますから、女性も身を守る手段として身に付けられたらいいと思いますよ」。

大きな大会としては、日本選手権、世界選手権などがある。

